

戦略

1

食の魅力づくり戦略 —優れた地場食材を最大限に活かすために—

①食を楽しむ魅力的な空間づくり

・農場・牧場や港周辺の食材生産と関連の深い風景を活かした食事場所の選定や、食にまつわる体験メニュー提供など、食を楽しむ場所としての魅力を高めています。

②食材の域内調達率の向上

・釧路市内で生産される質の高い地元食材を使った料理を積極的に提供して、観光客の満足度を高めるとともに、地域の経済にも貢献します。

③地域の食の魅力を担う人材育成

・食材生産者、加工事業者、料理の提供者、さらには市民が意識を共有し、観光客に魅力的な釧路の食を提供するための素地を作ります。

④地場食材を活かした加工品の開発

・地場の食材を使って新しい加工品の開発に取り組み、釧路市の食の魅力をお土産の面からもPRします。

取り組み事例



「地産地消くしろネットワーク」は、消費（地場産品と地元のサービスの積極的な愛用）、生産（地域の資源と知恵の活用）、人材（地域に根ざした人材ネットワークの拡大）に重点を置いた活動を行っており、地域が一体となって地産地消に取り組んでいくための中核的な推進組織を目指しています。

マ イ ス

戦略

2

MICE産業育成戦略 —新たな視点で交流産業を育成するために—

①MICE関連産業の実態・実績把握

・釧路市がこれまでコンベンションに取り組んだ実績について調査し、過去のノウハウを今後に生かすために地域内で意識と情報の共有を図ります。

②MICE誘致のセールスツール作成

・MICE誘致を積極的に進めていくためのツールとなるホームページやパンフレットを作成し、釧路市の情報発信の一環として活用して行きます。

③MICE誘致計画の策定

・釧路市としてMICEに取り組んでいく上での基本方針と具体的な施策について検討し、それに基づいて戦略的にMICE産業を育成していきます。

④アフターMICEの充実

・MICEをきっかけに訪れた方々に釧路市の様々な魅力を知ってもらうため、MICE参加者に対する情報発信やプログラム提供を進めていきます。

※MICEとは、Meeting, Incentive, Convention, Exhibition/Eventの略で、国際交流を戦略的に推進し国際競争力を確保しようという新たな交流産業です。大規模イベントの実施や会議開催は、来訪者の大幅増が期待できるとともに、様々な関連産業に大きな波及効果を与えます。

取り組み事例



2006年7月、阿寒湖畔で第1回日中韓観光大臣会合が開催されました。MICEを推進することで、釧路市の名前が全世界に情報発信され、知名度が向上するという利点もあります。

戦略

3

釧路ブランド構築戦略 —観光客に選ばれ続ける価値づくりのために—

①地場産品の品質保持・管理の仕組みづくり

・地場産品について適切な管理を行い、安定的に優れた品質を保持、提供できるような仕組みを構築します。

②釧路ブランドとしての認証とラベリング

・高い品質を保持している地場産品を釧路ブランドとして認証、統一したラベルのもとに市場に対してアピールして、釧路市の地域イメージ浸透の足がかりにします。

③釧路市民と観光客に向けた釧路ブランドのプロモーション

・ブランド認証、ラベリングとあわせて、これらの地場産品を釧路市民、観光客の双方に対して認知してもらうためのプロモーションを行います。

④釧路ブランドのPRと組み合わせた地域への誘客キャンペーン

・釧路ブランドの産品の中から、釧路市内でしか手に入らないもの、釧路市にないと味わえないものを選び、釧路市観光の魅力要素としてアピールします。

取り組み事例



質の高い水産物が水揚げされる釧路市では、釧路ブランド産品の確立に向けた動きが盛んです。中でも「くしろ鯨ブランド研究会」は、釧路の鯨の商品化・ブランド化を図るとともに、鯨食文化の普及を目的として設立されました。これまでに、鯨料理レシピの募集や、イベントでのPR、冊子づくりなどが行われ、釧路市内における鯨肉の利用が高まっています。

魅力的な地域づくり戦略 —観光客、釧路市民双方にとって居心地の良い空間を実現するために—

①自然環境資源の持続的な活用

・釧路市の大切な観光資源である優れた自然環境を持続的に活用していくため、観光の現場で自然環境への負荷を減らす取り組みを進めます。

②まちなかのにぎわいづくりと既存観光施設の魅力づくり

・既存施設の活性化とイベントの創出により、観光客にも釧路市民にも魅力的なまちなかの賑わいをよみがえらせます。

③交通インフラとサイン類の充実

・観光客、釧路市民双方の移動しやすさの両立と、場所のわかりやすさに重点を置いて、交通網ならびに交通サイン類の充実を図ります。

④釧路らしさを感じさせる景観の整備

・釧路市観光をより印象的なものにするため、釧路市らしい景観の整備を進めるとともに、景観を楽しむための手段・場所の充実を図ります。



取り組み事例

幣舞橋周辺の釧路川の様子ですが、釧路市のイメージを形成する上で重要な要素となるポイントを絞り、「釧路市らしい」景観を意識した魅力づくりを進めていくことが期待されます。

広域連携強化戦略 —新しく加わった魅力を最大限に活かすために—

①各エリアの位置づけの明確化

・合併した各地域の特性に配慮して、それぞれの地域が目指す将来的な姿を明確にした上で新生・釧路市としての観光の推進を図ります。

②エリア相互の連携と補完

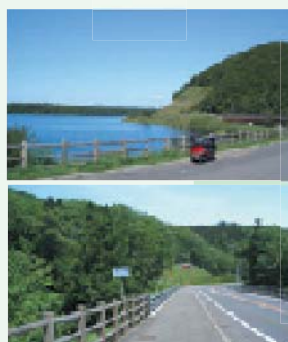
・新生・釧路市が観光振興に取り組む上で各地域がそれぞれの特性を活かしながらお互いに足りない部分を補い、連携して取り組んでいきます。

③潜在的な魅力の発掘と観光活用

・釧路市民だけが知っている楽しみや、これまで観光客が見向きもなかったものにも目を向け、釧路市の新しい観光魅力として活かしていきます。

④東北海道全体での広域連携

・東北海道全域と広く連携して、全国の旅行者に対するアピール力をより強化するとともに、東北海道の中での中核的な観光拠点としてアイデンティティを発揮していきます。



取り組み事例

北海道では、寄り道を目指したくなる沿線の魅力づくりを目指したシーニックバイウェイの推進を行っており、「釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ」が2006年11月に新たに加わりました。国道240号線（釧路～阿寒）や同391号線（釧路～標茶）などがルートに含まれており、今後は広域での連携体制を構築する手段としても注目されています。

人材育成戦略 —釧路市民が担う観光まちづくりのために—

①まちづくり団体の発掘とネットワーク化

・釧路市内で観光に結びつく活動をしている市民団体や個人を発掘・評価するとともに、そのネットワーク化によって、これからの釧路市観光を担う大切な主体として育てます。

②おもてなし精神の醸成

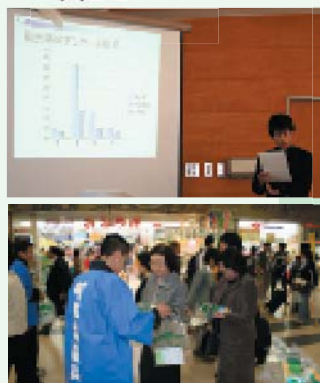
・市民一人ひとりが釧路市の観光を支えているという認識を共有し、観光客を温かく迎え入れる素地をつくっていきます。

③観光関連事業者の意識改革

・直接観光客とふれあう機会の多い観光関連事業者を中心に、釧路市観光の中核を担うプロフェッショナルとしての意識改革を進めていきます。

④人材育成プログラムの整備

・学校教育、社会教育、企業研修などさまざまな場面を活用し、観光に携わる人材を育てるプログラムを充実させます。



取り組み事例

阿寒湖中学校では、平成18年度の総合的な学習の時間から阿寒湖温泉地区の活性化に関する研究を行っています。1年生から3年生の生徒が観光客を対象にアンケート調査を行い、課題と考察結果について発表しました。

また、修学旅行で札幌駅構内にて阿寒湖PR活動を行っています。生まれ育った阿寒湖のよさをPRするとともに、ふるさとに自信を持つことをねらいにした活動であり、生徒にとって貴重な体験の場となっています。

観光情報発信戦略 — 釧路市の魅力を的確に発信するために —

① 新生・釧路市としての観光イメージ確立

・新しい釧路市のイメージ形成を図るとともに、それを活用して観光客誘致を積極的に進めます。

② 多様なマーケットに応じた情報提供

・団体客、個人客など観光客側の特性に応じて、的確できめ細かな釧路市観光の情報を提供していきます。

③ 釧路の“旬”を活かした情報発信

・季節限定性の高い情報などを重視し、今しか味わえない釧路市の魅力についての情報を提供していきます。

④ 観光情報提供体制の充実

・釧路市内部での情報把握と共有化を進め、新しい釧路市が一体となって情報発信を進める体制を築きます。

取り組み事例



米国・ヨセミテ国立公園のビジターセンター

レンジャーが利用者の疑問に答える他、日替わりで実施されるガイドプログラム等の情報も提供。利用者側もこれらの「生きた情報」を求め、積極的にビジターセンターを訪れます。釧路市でも観光客に対して旬の情報を提供する仕組みづくりが期待されます。

観光データ整備戦略 — 今後の釧路市観光を考えていくために —

① 基礎的な観光統計類の整備

・観光に関連する基本的なデータを正確に把握し、釧路市観光の現在の姿を科学的に把握するための基礎を固めます。

② 経済波及効果調査の実施

・観光が地域の経済に及ぼす影響の大きさを把握して、関連他産業も含めた観光への意識向上につなげます。

③ 来訪者満足度調査の実施

・釧路市を訪れた観光客がどれだけ満足したのかを数字で把握して、今後の釧路市観光の質を高めるためのデータとして活用します。

④ データを活用した観光政策の立案

・基礎的なデータやそれに基づいた分析を通して、釧路市観光が次に何をすべきか、科学的・戦略的に検討していきます。

取り組み事例



釧路公立大学地域経済研究センターと(財)日本交通公社との共同研究の成果

釧路公立大学地域経済研究センターでは、地域の観光に関する様々な研究を行ってきました。今後はこうした研究に加え、釧路市観光の量と質を正確に把握することで、確実な観光政策の立案に結びつけていきます。

観光推進体制リフレッシュ戦略 — 観光政策を確実に実行していくために —

① 産・学・官・市民の連携による観光地マネジメントの実現

・産業界、教育・研究機関、行政、市民活動団体など、多岐にわたる取り組み主体が連携することによって、釧路市の観光をよりよい姿に導いていきます。

② 観光関連組織の改革

・新しい釧路市が一体となって観光に取り組んでいく上で相応しい観光推進組織を築いていきます。

③ 政策の評価と見直し

・ビジョンに基づく取り組みの進み具合と効果を定期的にチェックし、必要に応じて見直ししながら目標を実現していきます。

④ 観光目的の安定的な独自財源の検討

・観光を目的とした独自財源を自主的に導入して効率的に運用し、観光施策を進めていくことを検討します。

釧路市観光振興ビジョン検討委員会の様子

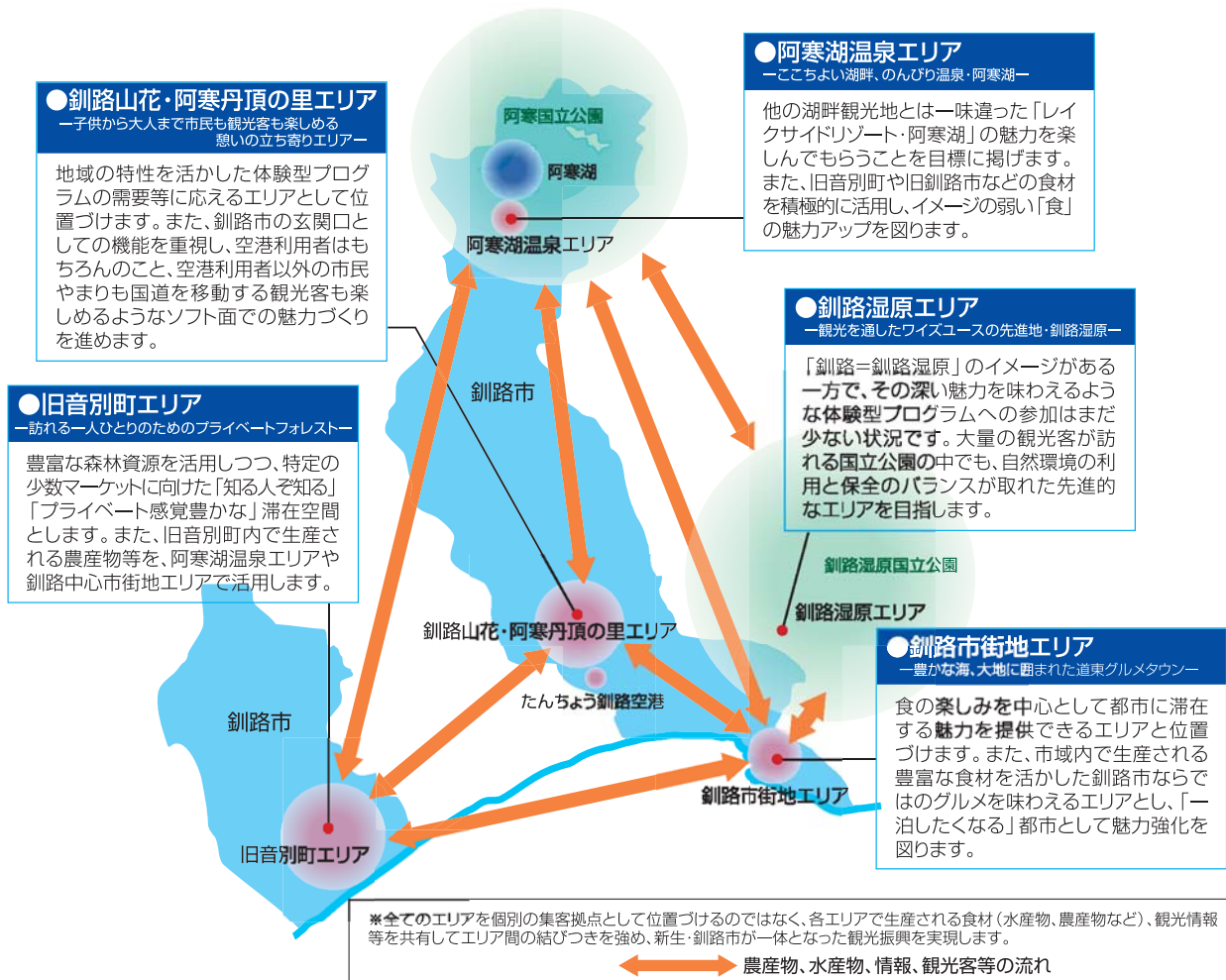


釧路市観光振興ビジョン検討委員会では、新生・釧路市の方向性や具体的な施策などが話し合われました。また、地元の観光に携わる実務者によって構成されるワーキンググループも設置し、釧路市で活動する市民団体などの情報収集等を行いました。

エリア別観光振興のイメージ

釧路市では、観光振興の面から3つのコアエリア（釧路市街地エリア、阿寒湖温泉エリア、釧路湿原エリア）と2つのサブエリア（旧音別町エリア、釧路山花・阿寒丹頂の里エリア）を設定します。コアエリアに関しては、観光客の集客拠点として、人材、食材、情報など、観光に関する様々な要素が集積するエリアと位置づけ、まちなか、自然、温泉が一体となった多彩な魅力を持つ観光エリアの形成を図ります。

サブエリアに関しては、市民の憩いの場としての機能を持つとともに、長期滞在観光客の受け入れを行います。また、コアエリアへの食材や人材などの供給をすることで、観光の重要な担い手として位置づけます。



みんなで育てる釧路市の観光まちづくり

① 釧路市を知ろう

良く知っているようで知らないのが、自分が住んでいるまちのことです。合併して多くの魅力が加わった釧路市を、もう少し深く知ってみませんか。思いもよらない、新しい発見があるはずです。



「釧路臨港鉄道の会」は、釧路市の重要な産業遺産である運炭列車をサポートしていくことを目的として釧路市在住のファンによって結成されました。産業観光を考える講演会の開催やDVDなどを制作し、地域に密着した幅広い活動を行っています。

② 釧路市の素材を活かそう

身のまわりにありふれている資源や、釧路市ならではの素材はありませんか。身近にあるものを活用して、様々な楽しみ方を考えてみましょう。



旧音別町では、平成元年に町内酪農家の主婦による乳製品加工研究グループが結成され、町内で生産される新鮮な牛乳や、昔から町の特産品として有名なフキを使ったソフトクリーム・アイスクリームの製造・販売を行っています。

③ 観光客を温かい心で迎えよう

「釧路市に来てよかった」と思っていただけのために、「困っている方を見かけたら声をかける」、「オススメの場所を教えてあげる」など、みんなで温かく観光客を迎えましょう。



「金星釧路ハイヤー」は、「新釧路市観光支援宣言」などを掲げ、観光を重視した取り組みを行っています。中でも、「タクシー観光乗務員講習会」は、乗客のもてなし方や道東を含めた観光地などを学んでもらうことを目的として開催されています。また、特に観光接遇に優れた乗務員を観光乗務員として任命しています。

短期重点プロジェクト

観光まちづくり分野

●まちづくり団体の発掘とネットワーク化

戦略6-①

当ビジョン策定の経緯でWGメンバーが着手した、地元活動団体の掘起こし作業の成果も活かし、これら団体同士のネットワーク形成に向けた取り組みに着手します。

観光産業育成分野

●食を楽しむ魅力的な空間づくり

戦略1-①

食材生産者と観光事業者の商談会や地域食材のブランド化、新規メニューの開発など、食の魅力づくりに向けた地元関係者の取り組みが進んでいることを受け、食を楽しむ空間の魅力アップに着手します。

システム構築分野

●経済波及効果調査の実施

戦略8-②

釧路市のリーディング産業として重要な位置づけとなる観光産業が、釧路市にどのような経済効果を及ぼしているのか、常に把握できるような仕組みづくりを行います。

当ビジョンで

掲げる戦略と施策には、資金や労力の問題から取り組みやすいものとそうでないものがあります。また、そのような難易度によらず、すぐにでも取り組むべき重要な施策など、性格の異なる項目が含まれます。したがって、取り組みやすさに加えて、目標を達成するために「今すべきこと」を吟味した上で施策を進めていきます。

●MICE産業の実態・実績把握

戦略2-①

国レベルでの取り組みが加速している現状も踏まえ、釧路市内でのこれまでのMICE関連の実績と、産業の実態把握を行います。

●来訪者満足度調査の実施

戦略8-③

釧路市観光の質を向上させていくためにも、釧路市を訪れた観光客の満足度を常に把握できるような仕組みづくりを行います。

—市民一人ひとりが釧路市観光の担い手になるために—

④観光客を受け入れる舞台づくりをしよう

住んでいる人、訪れる人の双方が「居心地がいい」と思えるまちをつくるためにも、身近な場所の魅力づくりをしてみましょう。



阿寒湖温泉地区では、阿寒湖畔の景観イメージアップを図るために「花いっぱいプロジェクト」が展開されています。地域全体で観光客を迎えるための基盤整備を、住民が主体となって進めています。

⑤釧路市の魅力を伝えよう

自分が知っている釧路市の魅力、そして新たに知った魅力を、身近にいる人や釧路市外に住んでいる人などに伝えましょう。



「釧路観光ガイドの会」は、釧路観光協会が例年開催してきた観光講座に集う市民により結成され、市民総ぐるみで観光ガイドができる街を目指して活動を行っています。釧路発祥の文学や歴史、自然、建築物、サケの水揚げなど幅広い分野の案内をすることが可能です。

⑥観光まちづくりに参加しよう

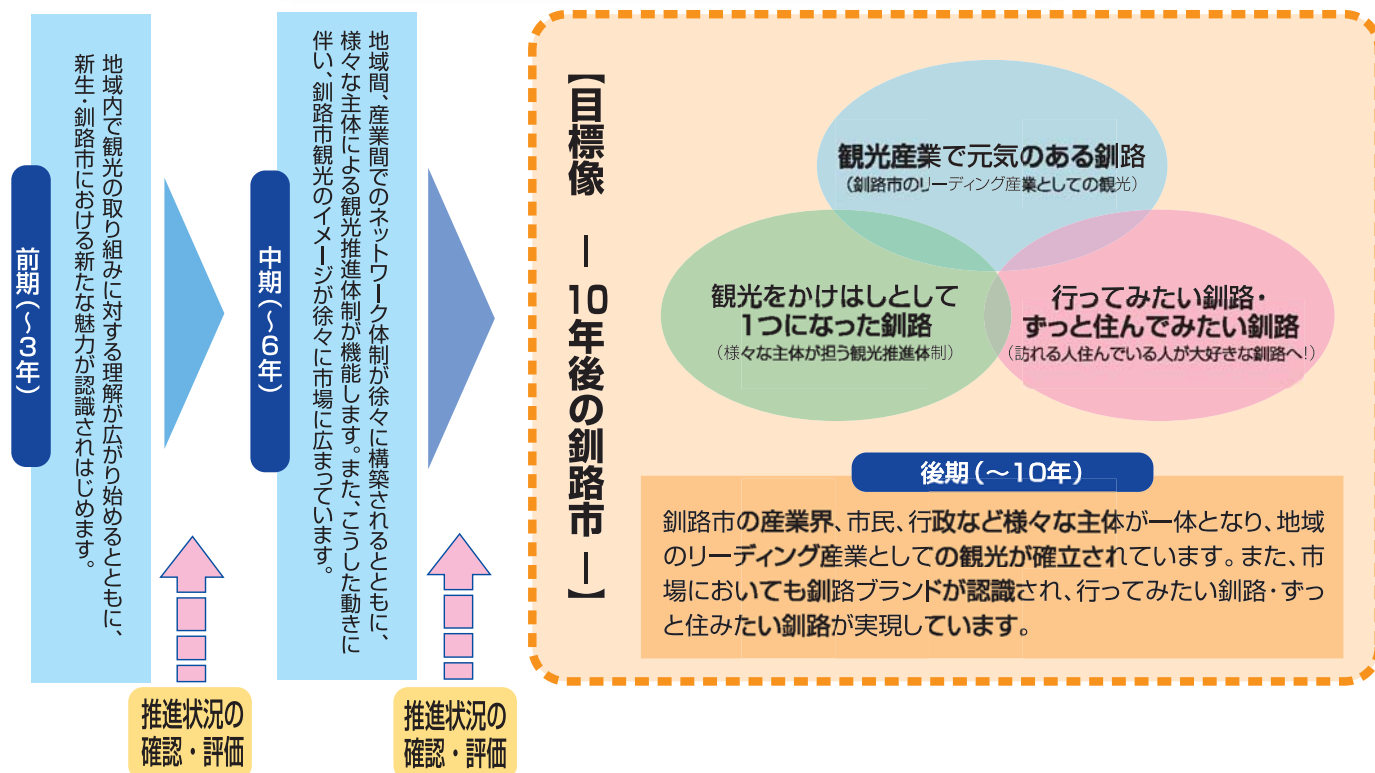
釧路市では、様々な市民活動団体が観光の場面で活躍しています。自分の好きなこと、得意なことがある人は、できることから行動を起こしてみたいはかがでしょうか。また、すでに活動している団体ののぞいてみたいはかがでしょうか。



阿寒湖温泉地区に居住する女性で組織された「まりも倶楽部」は、女性の立場からできることを始めようと、ガイドマップの作成や、地元の産品を活用した料理研究など幅広い活動を行っています。いつでも誰でも参加したい時に参加できる雰囲気心がけており、活動を無理なく続けていける体制を確立しています。

ビジョン展開のイメージ

『みんなが担う、みんなが育てる観光産業を新生・釧路市に根付かせ、持続可能な自立型の地域経済を目指します』



ビジョンの策定

釧路市観光振興ビジョンの策定作業については、平成18年度における釧路市と釧路公立大学地域経済研究センターの共同研究プロジェクトとして実施しました。地域経済研究センターでは長年にわたって観光産業が地域の資源を生かした自立産業として展開していくための実証的な研究を積み重ねてきており、それらの成果を生かしながら釧路市と一緒にビジョンの策定に当たりました。

ビジョンの策定に当たっては、釧路市長をはじめ地元のメンバーと幅広い学識専門家により構成される釧路市観光振興ビジョン検討委員会を設置して審議、検討を行うとともに、その下に地元の若手実務メンバーも加わったワーキンググループを置いて精力的に検討を重ねてきたところです。

なお、ビジョン策定作業には、平成12年度から継続的に地域経済研究センターと共同研究に取り組んできた財団法人日本交通公社が事務局として参加しました。

<検討委員会メンバー>

座長	小磯 修二	（釧路公立大学教授、地域経済研究センター長）
委員	伊東 良孝	（釧路市長）
	原 重一	（原重一観光研究所 主宰）
	野口 智子	（ゆとり研究所 所長／NPOスローライフ・ジャパン 事務局長）
	真野 洋介	（東京工業大学大学院 社会理工学研究科 社会工学専攻 助教授）
	佐藤 悦夫	（社団法人釧路観光協会 会長）
	大西 雅之	（NPO法人阿寒観光協会まちづくり推進機構 副理事長）
	川村 利明	（市橋建設株式会社 代表取締役社長）
	近藤 信治	（株式会社釧路丸水 代表取締役社長）
	石森 亮	（日本政策投資銀行 北海道支店長）
	梅川 智也	（財団法人日本交通公社 研究調査部長）
	本吉 俊久	（釧路市阿寒町行政センター長）
	紅林 昌宏	（釧路市音別町行政センター長）
	小林 強	（釧路市経済部長）

平成19年3月
釧路市観光振興ビジョン＜概要版＞

お問い合わせ／釧路市（経済部観光振興室）

〒085-8505 北海道釧路市黒金町7丁目5番地 ☎ 0154-23-5151（代表）

釧路公立大学地域経済研究センター

〒085-8585 北海道釧路市芦野4丁目1番1号 ☎ 0154-37-5325